



祝然◎编著

人生は希望に満ちた一作



每天读一点日文

日本短篇小说

精华选



于简单中显深刻，于平淡处见真情

名篇荟萃，赏译结合，适合进阶学习的中日双语阅读精品

字字珠玑，句句隽永，
细腻笔触书人生百味，墨韵书香写文字回廊。

日汉对译
典藏版



中国宇航出版社

祝然◎编著



每天读一点日文

日本短篇小说

精华选

日汉对译
典藏版



中国宇航出版社

·北京·

版权所有 侵权必究

图书在版编目 (C I P) 数据

每天读一点日文：日本短篇小说精华选 / 祝然编著

— 北京：中国宇航出版社，2018.4

ISBN 978-7-5159-1438-1

I. ①每… II. ①祝… III. ①日语—阅读教学—自学参考资料 IV. ①H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字 (2017) 第316757号

策划编辑 李琬琪

封面设计 李彦生

责任编辑 李琬琪

责任校对 李光燕

出版 中国宇航出版社

社址 北京市阜成路8号

邮编 100830

(010) 60286808

(010) 68768548

网址 www.caphbook.com

经销 新华书店

发行部 (010) 60286888

(010) 68371900

(010) 60286887

(010) 60286804 (传真)

零售店 读者服务部

(010) 68371105

承印 三河市君旺印务有限公司

版次 2018年4月第1版

2018年4月第1次印刷

规格 787×960

开本 1/16

印张 19.75

字数 256千字

书号 ISBN 978-7-5159-1438-1

定价 39.80元

本书如有印装质量问题，可与发行部联系调换

前言 »

有关短篇小说的意义与价值，茅盾先生曾评价其能够“抓住一个富有典型意义的生活片段，来说明一个问题或表现比它本身广阔得多、也复杂得多的社会现象”。诚然，短篇小说虽然篇幅不长，却往往字字珠玑，句句隽永，她不但能够带给读者丰富的想象空间，更以绵长的阅后回味让人久久不能忘怀。因此，在短篇小说简洁干练的故事情节背后，通常还潜藏着十分深刻的道理与感悟，从而带给读者更加具有纵深度的阅读感受——而这，正是编者结集此书之初衷与动力。

本书所录 28 篇文章均选自日本近现代文学作品，就选篇特点而言，大体可以总结为如下四点：其一，篇幅适中。本书选篇篇幅大都控制在七八千字，究其原因，太短则难以尽兴，太长则易感拖沓，唯有适中的长度才能带来最为愉悦的阅读感受，进而激发读者的阅读兴趣。其二，选篇新颖。如今市面上有关日本文学的阅读书籍不在少数，加之经典作品毕竟有限，因而出现选篇的重叠便成为难以避免的事实。对此，本书本着对读者负责的态度，尽最大努力另辟蹊径，选取鲜有译介的经典作品入集，以期带给读者全新的阅读体验。其三，模式便捷。本书对文章中出现的所有日文汉字均标注假名，并对生僻单词进行注释，十分适合读者朗读与理解。同时，本书还将文章中的旧用日文汉字全部更改为现代日语当用汉字，并整合零碎段落，以最大限度方便日语初学者阅读。其四，赏译结合。本书在每篇小说前均附有简练独到的作品赏析，以方便读者鉴赏选篇内容。对于选篇中出现的典型文化元素，本书还在文中以“豆知识”的形式进行介绍，读之妙趣横生。另外，本书采取日汉对照的

方式，日文在前，中文在后，读者可根据自身需要进行对照翻译练习。

根据选篇内容，编者将本书分成了“青春年少”“爱是永恒”“人间百味”“另类书写”以及“悚然怪谈”五个部分。其中“青春年少”选篇的主人公多为十几岁的少男少女，故事内容清新、节奏明快，处处洋溢着青春的气息；“爱是永恒”部分从恋人之爱、亲人之爱、友人之爱等角度出发，在日语语境中对“爱”这一人类永恒主题进行了细腻的解读与品评；“人间百味”选取横光利一、太宰治、梅崎春生等知名作家的五部作品，以精湛的艺术手法从生活中的细微之处入手，对于人间百味进行了各具特色的诠释；“另类书写”所录文章大都笔调别致，文风另类，作者对于人们习以为常的主题进行了全新的书写，读之使人耳目一新；“悚然怪谈”是本书最具特色之处，作为日本文学中的一道另类风景，怪谈类作品总能凭借自身诡异的基调与玄妙的语境牢牢地吸引读者的眼球，本部分选取怪谈鼻祖小泉八云、烧脑作家梦野久作等大家名作，为读者营造出了绝对惊悚的阅读氛围。

高尔基云：“文学即为人学。”若本书能够在帮助读者提升日语阅读水平的同时，带领读者一并品味日本文学视域内的人生百态、飨读者以人间至理，若本书能够满足读者需求、博得读者喜爱，于编者而言将是无比欢慰之事。同时，由于编者能力有限，辑录选篇时恐有不够周全之处，译文当中也难免会出现不禁推敲之字句，此般种种，还请读者同仁谅解并不吝赐教。

本书在编译过程中得到了中国宇航出版社诸位编辑的大力支持与帮助，正是由于他们的认真审校与仔细编排，以及他们高效严谨的工作作风才使得本书最终能够顺利面世，在此深表感谢！

编者

2017年11月

II

目录 >>

第一章 青春年少

● 先生の顔	002
老师的脸庞	003
● 杯	012
杯	013
● 笑われた子	020
被嘲笑的孩子	021
● 少年の悲哀	028
少年的悲哀	029
● 夏帽子	044
草帽	045
● 兄妹	054
兄妹	055

第二章 爱是永恒

● 声	062
声音	063
● 木精	066
回声	067

● 不思議な魚	074
不可思议的鱼	075
● 牛鍋	088
牛肉火锅	089
● 葉桜と魔笛	094
叶樱与魔笛	095

第三章 人间百味

● 魚の餌	112
鱼饵	113
● 接吻を盗む女の話	126
盗吻女人的故事	127
● 秘密の相似	140
相似的秘密	141
● 桜桃	158
樱桃	159
● 蠅	172
蝇	173

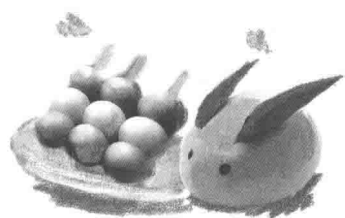
第四章 另类书写

● 失敗園	188
失败园	189
● 蜘蛛の糸	198
蜘蛛丝	199

● 恐怖	206
恐怖	207
● 犬	222
狗	223
● 鼻	226
鼻子	227
● 火星の運河	242
火星的运河	243

第五章 悚然怪谈

● 縊死体	256
吊尸	257
● 不思議な国の話	262
不可思议国度的故事	263
● あやしい旅僧	278
奇怪的云游僧	279
● 河童小僧	286
河童小子	287
● 雪女	292
雪女	293
● 桜の樹の下には	302
樱花树下	303



第一章 青春年少

先生の顔

竹久夢二

1

それは火曜日の地理の時間でした。

森先生は教壇の上から、葉子が附図の陰にかくれて、ノートへ戯書^{いたづらがき}①をして
いるのを見つけた。

「葉子さん、そのノートを持ってここへおいでなさい。」不意に森先生がおつ
しやったので、葉子はびっくりした。

葉子は日頃から成績の悪い生徒ではありませんでした。けれど鉛筆と紙さえ
持つと、何時でも——授業の時間でさえも絵を画きたがる癖がありました。今
も地理の時間に、森先生の顔をそっと写生していたのでした。そして葉子は
森先生を大変好きでした。

森先生に呼ばれて、葉子はそのノートを先生の前へ出した。先生はすこし厳しい顔
をしてノートを開けて御覧になった。するとそこには、先生の顔が画いてあつた。

森先生は、それをお読みになって、笑いたいのを我慢して、やっとうおつ
しやった。「今日は許してあげますけれど、これからは他の時間に絵を画いて
はいけませんよ。これは私が預っておきます。」

作品
赏析

竹久夢二被称作“大正浪漫的代名词”“漂泊的抒情画家”，是明治、大正时期著名的画家、诗人以及歌人。他的创作打破了各艺术种类之间的界限，以一种杂糅的方式对当时的审美理念进行了独具一格的阐释。

本篇《老师的脸庞》是一篇面向少年儿童读者的作品，文调活泼，很有抒情诗的清新之感。通过作者生动细腻的描绘，“叶子”“光子”等少女形象跃然纸上，整篇故事就如同一部少女漫画，青春气息洋溢。

老师的脸庞

竹久梦二

1

那是在周二的地理课上。

森老师在讲台上看见叶子正躲在附图的后面悄悄地往笔记本上画着什么。

“叶子同学，请把笔记本交到前面来。”森老师突然说道，叶子吓了一跳。

叶子平时并不是学习不好的学生。然而她却有个习惯，只要手里有笔和纸，不论何时——哪怕是在课堂上她也会画起画来。今天地理课的时候也是，她正悄悄地画着森老师的脸。叶子非常喜欢森老师。

被森老师叫到之后，叶子把笔记本放到了老师的面前。老师表情有些严肃地打开笔记本看了起来。那里，画着老师的肖像。

老师看到了画之后忍住笑意说道：“今天先原谅你，其他课的时候不可以画了哦。本子先放我这里。”

注释

①「戯書」【名】乱写，乱画

葉子はお辞儀をして静かに自分の席へつくと、教壇の方を見あげた。けれども森先生は、決して葉子の方を御覧にならなかった。葉子にはそれが心配でならなかった。

やがて授業時間がすむのを待ちかねて、生徒達は急いで家へ帰っていった。葉子が一番最後に学校の門を出て、たったひとり帰ってきた。途途にも今日の地理の時間のことが心を放れなかった。

2



つぎの日、葉子はすこし早めに家を出て、森先生のいつも通って②いらっしやる橋の上で先生を待っていた。やがて先生は、光子という同級の生徒と連れだって歩いていらした。葉子は丁寧に辞儀をした。先生は何事もなかった前のように、にこやか③に「おはよう。」をおっしゃった。それで葉子は、ほっと安心した。そしてうれしさに忙しくて、悪い気ではなく光子に「おはよう。」を言うのを忘れていた。

「葉子さんおはよう！」光子はわざと意地悪く葉子の前へ突立ってお辞儀をした。そして「葉子さん、今日は廻道をしていらしたのね。」と光子は咎める④ように言った。葉子は日頃から意地の悪い光子が好きでなかった。

「ええ。」と葉子はおとなしく答えた。森先生は、葉子のリボンをなおしてやりながら、「葉子さんのお宅は山のほうでしたねえ。お宅の近所の野原には沢山に草花が咲いていてどんなにかいいでしょうね。」「先生はあんな田舎のほうがお好きですか。」「ええ、毎日でもゆきたいと思いますわ。」

「先生、私の宅へいつかいらっしやいましな。そりゃあ綺麗な花があるの。だって、葉子さんのお宅の庭ずっと広いんですもの。」光子が勢いこんで言ったけれど、誰もそれには答えなかった。

叶子鞠了一躬，默默地回到座位上，抬头望向讲台。然而森老师却没有看叶子。叶子开始有点担心了。

好不容易等到上完课，学生们都急急忙忙地回家了。叶子最后一个走出校门，独自向家走去。一路上，她都因为今天地理课上的事情放不下心来。

2

第二天，叶子比平时稍早一些出门，在森老师通常都会经过的桥上等着老师。终于，老师带着一个叫光子的同级生一同走了过来。叶子有礼貌地打了招呼。老师仿佛什么都没发生似的和蔼地说：“早上好。”如此一来，叶子也就安心了。可能是因为光忙着高兴了，叶子无意间竟忘了和光子道“早安”。

“叶子，早啊！”光子突然恶作剧地闯到叶子面前打着招呼，然后她又盘问似的说道：“叶子同学，今天特意绕路了呀。”叶子平素就不太喜欢总爱恶作剧的光子。

“嗯。”叶子老实地回答道。老师一边给叶子整理领结，一边说：“叶子同学的家在山那边是吧。你家附近的田野里开了好多花，多么美呀。”“老师喜欢那样的乡下吗？”“嗯，每天都想去呢。”

“老师去我家吧。那里有美丽的花呢。而且，比叶子家的院子要大好多好多。”光子得意地说，不过没有人回应她。

注释

②「通う」【自五】来往，往返；相通

③「にこやか」【形动】和蔼，和气，笑容满面的样子

④「咎める」【自他】非难，责备，侮辱

3

つぎの日も、そのつぎの日も、葉子は森先生を橋の上で待合して学校へ行った。けれどノートの事については何にもおっしゃらなかった。葉子もそれをきこうとはしなかった。

光子は葉子が先生と一緒に学校へ来るのが妬ましくてならなかった。その週間も過ぎて、つぎの地理の時間が来た。

葉子が忘れようとしていた記憶はまた新しくなった。葉子は、おずおず⑤と先生の方を見た。先週習ったところは幾度となく復習してきたから、どこをきかれても答えられたけれど、先生は葉子のほうを決して見なかった。そして光子に向かって、「巴里はどこの都ですか。」とお訊になった。すると「フランスの都であります。」と光子が嬉しそうに答えた。

地理の時間が終ると、運動場のアカシヤの木の下へいって、葉子はぼんやり足もとを見つめていた。何ということなしに悲しかった。

「葉子さん。」そう言って後から葉子の肩を軽く叩いた。それは葉子と仲好⑥の朝子であった。朝子は葉子の顔を覗きこんで「どうしたの。」ときいた。

「どうもしないの。」そういって葉子は笑って見せた。

「そんならいいけど。何だか考えこんでいらっしゃるんですもの、言っていることなら私に話して頂戴な。」

「いいえ、そんな事じゃないの、私すこし頭痛がするの。」

「さう、そりゃいけないわね。」

葉子はじっと思入って朝子を見つめて「朝子さん。」

「え。」

「あなた森先生お好き？」



第二天，第三天，叶子都在桥上等着和老师汇合去学校。然而老师却从未说过笔记本的事情。叶子也从来没有问过。

光子十分嫉妒叶子能和老师一同来学校。这一周过去了，又到了地理课的时间。

叶子原本已经淡忘的记忆又重新清晰了起来，她战战兢兢地望向老师，上周学过的东西她已经复习了好几遍，不论老师问什么她都能回答出来，然而老师却根本没有看叶子那一边，而是转向光子问道：“巴黎是哪里的首都呀？”光子很得意地回答：“是法国的首都。”

地理课结束后，叶子走到操场里的洋槐树下望着自己的脚下出神。她感到莫名的忧伤。

“叶子同学。”有人轻轻从后面拍了拍她的肩膀。原来是叶子的好朋友朝子。朝子打量着叶子的脸问道：“你怎么了？”

“没怎么。”叶子笑了笑。

“那就好。你看起来好像心事重重的，如果可以，跟我说说吧。”

“没有，不是那样的，我只是有点头疼。”

“这样啊，这可不行。”

叶子沉思了一会儿盯着朝子说：“朝子同学。”

“嗯？”

“你喜欢森老师吗？”

注释

⑤「おずおず」【副】怯生生，提心吊胆，胆战心惊

⑥「仲好」【名】关系十分要好

「ええ、好きよ、大好きだわ。」

「あたしも好きなの、でも先生は私のことを怒っていらっしゃる様なの。」

「そんなことはないでしょう。」

葉子は、朝子に心配の種を残らず打明けた⑦。それから二人は森先生のやさしいことや、先生はどこの生れの方だろうという事や、先生にもお母様があるだろうかという事や、もし先生が病氣なさったら、毎日側について看病してあげましようねという事や、もしや死んでしまっても、先生のお墓の傍に、小さい家をたてて、先生のお好きな花をどっさり植えましようという事などを語り合った。

4

それから三日目の朝、学校へゆくと森先生が病氣だという掲示が出ていた。葉子は、学校から帰ると大急ぎで野原へ出て、いつぞや森先生がおっしゃった、お好きな花を抱えきれないほどたくさんに摘みとった。

葉子は、いつか森先生に出逢った橋のところまで来ると、むこうから光子が来るのに会った。

「どこへ行くの？」光子がいきなりきいた。森先生のところへといえ、また何とか意地悪い事を言われるのがいやさに、それとなく、「ちょっとそこまです……」と答えた。

「隠したって知っててよ、森先生のところでしょ！先生のところへいったって駄目よ。先生はあなたのこと怒っていらしてよ。そしてあなたを大嫌いだって。」さも憎らしそうに光子は言っ、葉子の持っている花を見つけた。「まあ、それを先生のところへ持っていらっしゃるの。そうでしょう。先生のところにはもっと綺麗な花が山のようにあってよ。だって温室からとっていったんですもの。でもいらっしゃりたいなら勝手にいくといいわ。そんなきたない花を先生はお喜びになるかもしれないわ。あばよ。」そう言捨てて光子は行ってしまった。

“嗯，喜欢，非常喜欢。”

“我也喜欢，不过老师好像生我的气了。”

“没有这样的事情啦。”

叶子向朝子敞开心扉，讲了自己心中的烦恼。然后两个人一起聊了很多，比如森老师是那样的和蔼，老师是在哪里出生的，老师的妈妈是否还在，如果老师生病了她们就每天都在老师身边照顾老师，如果老师死了，她们就在老师的墓旁建一座小房子，种好多老师喜欢的花在那里……

4

在那之后的第三天早晨，叶子到学校后看到了森老师生病了的通知。放学后，叶子急匆匆地跑向原野，摘了满满一怀老师曾经说喜欢的花。

叶子来到了和森老师相遇的桥上，看到对面光子正走过来。

“你去哪儿？”光子立刻问道。叶子想，如果告诉她去老师那里，她肯定会说些讨厌的话。于是转而回答说：“去那边一下……”

“就算你瞒着我我也知道，你是去森老师那里对吧？你不能去森老师那里！老师生你的气呢。而且老师很讨厌你！”光子盯着叶子拿着的花，更加令人讨厌地说道：“哎呀，这是要拿到老师那里的花吗？是吧？老师那里有像小山一样多的更漂亮的花哟。毕竟人家是从温室里面摘回来的。不过你要是想拿过去的话随便你吧，老师会因为这么脏的花而高兴也说不定哦。拜拜！”撂下这句话，光子便走了。

注释

⑦「打ち明ける」【他下一】毫不隐瞒地说出，坦率说出